

ツーリズムEXPOジャパン2018

ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー& アジア・ツーリズム・ビジネス・リーダーズ・フォーラム

ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー

55セミナーに約3000人が参加

「ツーリズムEXPOジャパン2018」会期中の9月20日・21日、業界日限定プログラムとして「ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー」が実施されました。業界関係者の経験値に深みや厚みを加えるべく企画されたセミナーは55にも及び、約3000人が参加しました。

「自然」×「文化」×「スポーツ」の融合による観光先進国への挑戦！

地元主導の動きを行政がサポート

観光庁、環境省、文化庁、スポーツ庁の4省庁合同で初めて行われた今回のセミナーでは、「文化」、「自然」、「スポーツ」の3つの要素を地域固有のストーリーに掛け合わせることで、「地域の活性化」、「ビジネスチャンスの創出」につなげていくといった可能性が示されました。

また、各地の事例の紹介も行われました。一般社団法人しまなみジャパンの合田省一郎専務理事は、尾道と今治という瀬戸内海を挟んだ広域連携の成果を強調。一般社団法人信州いいやま観光局の柴田さほりインバウンド推進室長は、北陸新幹線延伸を受けた9市町村による広域PRの取り組みを紹介。伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議

会の江崎貴久会長は、国立公園の自然を生かした海女体験などのプログラムを約40社が提供し、地域資源の活用が進んでいると指摘しました。

JATAインバウンドシナジウム／文化庁、環境省の挑戦！「COOLな日本の宝 日本遺産、国立公園で観光先進国を目指す」

文化財・自然資源の活用による保全の時代へ

モデレーターを務めた松本大学の佐藤博康名誉教授は、文化庁や環境省が文化財や自然資源の保存保全や維持を図るために、利活用を通しての価値観の共有が求められる時代になったと指摘。文化庁の豊城浩行・文化財鑑査官は、「文化財や建造物を大切に過ぎ、地域に溶け込んでいなかった」と振り返り、「利活用を通して地域と融合した魅力の再発信を」と語りました。

環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室の谷垣佐智子室長補佐は、「日本の国立公園は暮らしの中にあるのが特徴」と指摘。「地域が元気でなければ国立公園は成り立たない」と訴え、「物語のある自然」をアピールしていく考えを明らかにしています。

タイのプロガーであるバナラットキヤットさんが「英語の看板やQRコードによる多言語化が増えている」と評価する一方、ANACセールズ海外旅行商品部のヴェンセックギヨムさんは、「日本人目線ではなく、外国人目線でツアーをつくって」と呼びかけました。

「多民族共生社会」を現地研修で学ぶ

マレーシア政府観光局の徳永誠マーケティングマネージャーは、訪日インバウンドの急激な拡大により交流人口が増える中で、多民族共生社会としての日本が問われていると指摘。千葉市と協働モデルを探り、「民族言語宗教など様々な価値観の共生するマレーシアへの研修旅行を実施した」と説明。これを受

持続可能な発展を目指し 活発なディスカッション

「持続可能な観光」がアジアが世界をリードする「3カ年テーマ」のアジア・ツーリズム・ビジネス・リーダーズ・フォーラムは、「観光ビジネスと地域の調和に向けたツーリズムのマネジメント」を本年のテーマとし、パネルディスカッションを行いました。

○基調講演

テーマ：「サステナブル・ツーリズムの世界的な最新動向と課題」
登壇者：グレアム・ミラー教授（和歌山大学 特別主幹教授、国際観光学術センター 副センター長）
英国サリ大学 文学部・人文学部 学部長

○セッション1

テーマ：「持続可能性に向けたツーリズムのマネジメント」観光地への過密を管理し、持続可能な観光のメリットを最大化するには？」

モデレーター：JTB総合研究所 高松正人 上席研究理事
パネリスト：門川大作 京都市長
西日本鉄道自動車事業本部 安田堅太郎 営業企画部長
太平洋アジア観光協会（PATA）マリオ・ハーディ CEO

○セッション2

テーマ：「ツーリズム・ビジネスと地域社会の暮らしやすさ」ツーリズム・ビジネスが地域社会の持続

け、千葉市経済農政局経済部観光プロモーション課の小亀さおり氏は、千葉市でインバウンド政策「ムスリムと友達になろう大作戦」を実施し、同市に滞在するムスリム系の人々が16.5%増加したことを紹介。さらに神田外語大学の市川透国際交流課長は、産官学課題解決型のマレー

シア研修について、語学だけではない、現地の学生と交流しながらビジネスを学び、研究活動を行う意義を強調しています。研修に参加した学生たちも、「互いの文化を尊重して共存する多民族社会に感動した」と発表。「物事を多面的に見ることの大切さ」をアピールしました。

的な成長を支える

モデレーター：グレアム・ミラー教授
パネリスト：マレーシア観光芸術文化省 タトウ・ランディ、ハスフラ事務次官
グロバル・ヒマラヤ・エクスパティシオン パラス・ルーンバ 創設者兼CEO
気仙沼商工会議所 菅原昭彦 会頭

総合モデレーターを務めた高松氏は、総括セッションで、「地域に育まれる調和と誇りによる観光の継続的発展こそ、持続可能な観光の大きなメリット」と強調。ミラー教授は、各セッションで報告された共通事例が「地域の目指すビジョンが明白」であることに言及し、「若年層の雇用や流出人口の圧縮など、地域の最も重要な課題から取り組むべき」と指摘しました。ハーディCEOは、マイクロ・プラスチックによる海洋汚染の個別事例を取り上げ、PATAにとつては深刻な問題で、官民協力や学校での啓発活動など、危急の対策が必要」と訴えています。



アジア・ツーリズム・ビジネス・リーダーズ・フォーラムの様子